

令和2年3月～6月 コロナ臨時休校中の教育活動
ネット上のツールを駆使した取組

兵庫県立神戸北高等学校
校長 長澤 和弥

I 生徒・保護者への連絡手段（インフラは整備済み）

令和2年3月3日より、誰も経験したことがないコロナウイルス感染症による「臨時休校」が始まった。「入試はできるのか」「卒業式はどうなるのか」など、見通しが全く立たない中、そもそも、生徒や保護者への連絡手段は何を使うのか。

これについては、既に昨年度以降、以下の三つのことを整備していたことは、大変タイムリーで、本校にとって幸運なことであった。特に「北高メール」は、絶妙のタイミングで間に合った。

北高のウェブサイト	
いわゆる「ホームページ」。私の赴任後、令和元年6月に全面的に改築した。学校のサイトの役割＝「想定する視聴者」は、大きく二者であるとの考えを基本に、「中学生とその保護者」、そして、「在校生とその保護者」向けのコンテンツを増やし続けていた。令和元年度の終わりには、少なくとも在校生とその保護者には、完全に定着していた。	
「北高ブログ」	
県立教育研修所が運営しているWordPressを使って、北高サイト公開と同時に「北高ブログ」も立ち上げた。実際には私が、「北高 校長室から」と題して、ほぼ100%投稿してきている。 北高サイトと同様に、生徒と保護者には定着し、学校外の方を含め、少なからぬ「定期購読者」が生まれていた。なお、当初の目的は、「連絡手段」ではなく、「北高（北高生）の日常を知ってもらいたいためであった。 しかし、結果的には、臨時休校期間中、この北高ブログが最も大きな役割を果たし、細かな情報を混乱なく正確に伝えることができた。	
「北高メール」	
令和元年度まで契約していた業者のシステムは、アドレス登録数に制限があるなど、非常に使いにくく、現に生徒数の2～3割しか登録していなかった。このため年度途中に、料金は同じだが登録アドレス数に制限がなく、多機能であるシステムへの変更を決めていた。新しい業者は、私の前任校と前々任用で使用の実績があったので、信頼性も高かった。 新入生に対しては、3月の合格者説明会と4月8日の2回、紙面で案内し、即座に高い登録数を得た。2・3年生は、4月8日に紙面で案内したが、すぐに休校状態となり、当初登録率は低かったものの、緊急連絡手段として頻りに北高メールを利用したので、5月には全校生徒数の1.5倍近い登録アドレス数となった。	

● ウェブサイトの「レスポンス化」

なお、北高のサイトも「北高ブログ」も、日々グーグル・アナリティクスで観察していると、最少約7割、通常約8割、これまでの最高（臨時休校中に緊急のお知らせを発生したとき）で9割以上が「スマホ」で見ている。タブレットを入れるともっと多くなる。

このため、サイトを「レスポンス化」、つまり、パソコンやスマホなど、見る端末によって自動的に最適な見え方になるように設計することは必須であり、本校の場合、北高のサイトも「北高ブログ」も、それに対応していたことも幸いであった。

(QRコードは再掲)



● 「コロナ緊急連絡」開始（2月27日）

2月27日、北高ブログに「コロナ緊急連絡」というカテゴリーを新設した（右が、その共通アイキャッチ画像とカテゴリーのQRコード）。北高ブログの多数のカテゴリーの中で、この「コロナ緊急連絡」に属する投稿が最多であり、現在23件となっている。

2月27日を初回として、緊急連絡が生じると、詳しい内容は「北高ブログ」に投稿したうえで、「北高メール」で、「北高ブログに緊急のお知らせを載せたので見てください」と連絡するやり方を続けた。要するに、北高メールには詳しい内容は書かず、ブログとメールで役割の違いを明確にしたのである。



● 有効な緊急連絡手段が確立された

いつまで続くかも分からない臨時休校が始まる前、「緊急連絡は北高ブログを使うから、必ず定期的に見るように」と全校生に伝えたものの、それがどれだけ有効かは分からなかった。しかし、「北高ブログ」と「北高メール」の組み合わせが良く機能したことを示す事例がある。

3月2日の時点では、1・2年生とも3月9日と10日に「登校日」を設定していた。しかし、すぐに、その時期に登校日を設けるのは適当でないことが分かり、北高ブログと北高メールで取り消しの連絡をした。しかし、どれだけ行き届くか不安があったので、3月9日と10日の朝、数名の教員に最寄り駅まで行ってもらった。本校では殆どの生徒が電車通学であり、駅から数分かけて学校まで歩いてきた時点で追い返してはかわいそうだからである。

結果、1・2年生全員のうち、朝に駅までやって来たのはわずか1名であった。早々とこの時点で、「北高ブログ+北高メール」が、緊急連絡手段として有効で信頼できるものであることが証明されたのであった。

なお、北高メールでは、「教職員専用グループ」も設け、9割以上の教職員の登録を得た。このメールグループも、特に在宅勤務者が多くなった期間には、大きな威力を発揮した。

Ⅱ 4月第1週目からネットで教育活動（3学年）

3月初めから臨時休校に入ったが、3月には複数志願選抜もあるし、何しろ「年度末」である。しかし、4月になって「新年度」になると、話は別である。特に、進路に関わる3年生はいつまでも「受け身」で待っていることはできない。そこで、4月になってすぐ、3学年担任団を中心に、「何とかしよう」、「ネットを使って何かを始めよう」との動きが生まれた。

これは、3学年担任団の中に、元々ネット上のツールやサイトに詳しく、実践もある教員がおり、彼女が率先して動いてくれたからではある。しかし、今でこそある程度整理して話せるものの、当時は正に、「一律でなくても良いから、できることからやってみよう」、暗中模索の状態であった。

4月の唯一の登校日となった8日に、アクセス先やID、パスワードなど、使い始めるために必要な情話を伝え、翌4月9日には、北高メールによって、保護者に下の文書を配付した。

令和2年4月9日

第3学年保護者 様

兵庫県立神戸北高等学校
校長 長澤 和弥
第3学年主任 後中 保

臨時休校中の第3学年の取り組みについて(ご案内)

春暖の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

さて、コロナウイルスによる新型肺炎への対策として緊急事態宣言が発令され、5月6日までの休校が決定しました。

年度当初は3年生にとって、進路に向けた重要な時期です。臨時休校で学習活動が全て停止してしまうことを少しでも解消するために、オンラインサービスを活用します。

つきましては、オンラインサービスの活用について、下記のとおりご了承いただきますよう、お願いいたします。

記

〈活用するオンラインサービス〉 「Edmodo」 エドモド

(アプリケーションの説明)

Z会が運営する教育向けに作られたソーシャルネットワークサービスです。

教員から連絡を発信するのはもちろん、小テストの実施、課題作成・提出、授業動画の配信などを無料で行うことができます。生徒と教員間のやり取りは可能ですが、生徒同士でのやり取りができない点が大きな特徴となります。

(利用方法)

- 各教科による学習内容の提示・提出、小テストの作成
- 授業動画の配信
- 臨時休校中に無料で受講できる講座などの情報共有
- 生徒からの学習内容に関する質問受け付け

(注意点)

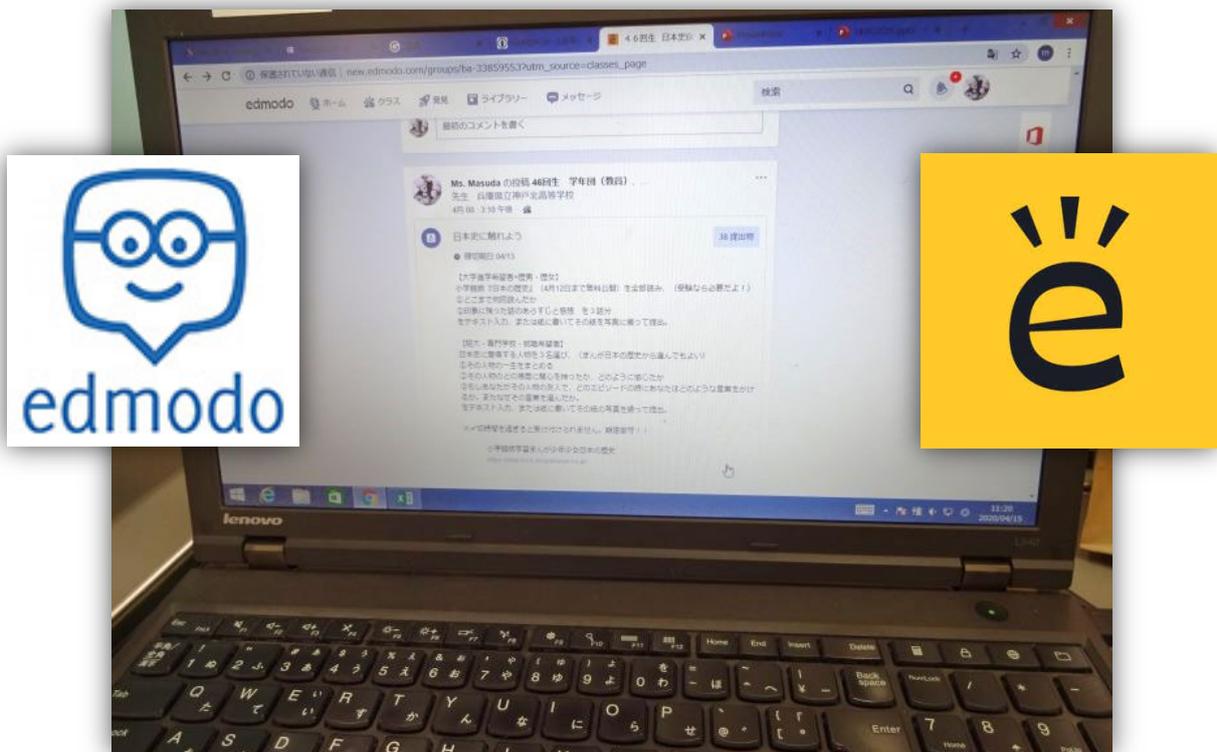
- スマートフォンの使用時間が増加する可能性があります。スマートフォンの使用が長時間になりすぎないように、ご家庭でも注意していただきますよう、お願いいたします。

Ⅲ 活用したネット上のツール

● 教育用 SNS 「エドモド Edmodo」－ 概要

前ページの保護者宛文書の通り、3 学年では、早々と 4 月 8 日から、オンラインツールを用いて、生徒の状況把握や学習支援を始めた

3 学年団が使い始めたツールは、まずは、日本では Z 会が運営する Edmodo エドモド と呼ばれるサイト／アプリであった。いわゆる SNS と系統的／機能的に似た部分も多いのかも知れないが、一般の SNS とは区別して、LMS=Learning Management System（学習管理システム）と呼ばれている。Facebook を使っている方なら、両者の共通点を多く感じるだろう。



Edmodo を使えば、実に多くのことができる。たとえば本校 3 学年では、朝夕の SHR や HR、授業受講者への連絡などに活用した。授業動画を置いてオンライン授業を行った教員も多い。より詳細は、次ページ以降をご覧ください。生徒に対してだけでなく、教職員間でも非常に役立つツールなのである。

生徒側は家庭で、自分のスマホや PC を使って参加する。体調を含め、生徒の様子を把握することもできる。日々の「健康チェック」に活用している担任もいた。言うまでもなく、システム上の教員の権限は高く、「部外者」は入れないし、本校生であっても、無関係な他のクラスの生徒がホームルームに出ていたりすると、退出させることもできる。Facebook などの SNS と違って、参加している「生徒同士」では、直接連絡が取れないのも教育用ならではの、である。

かといって、使い方が難解なわけではなく、特に普段 SNS を使っている教員なら、何の抵抗もなく使い始めることができるだろう。しかしながら、これだけの長い臨時休校期間を経た後も、この Edmodo は、Zoom などと違ってあまり注目されていないように思えるのが不思議である。これだけ手軽で多機能で教育機関向けなのに、である。

● 教育用 SNS「エドモド Edmodo」－ 生徒対象にできること

まず、教員（例：1年1組担任）がユーザー登録し、次に、1年1組の生徒たちがユーザー登録する。教員（担任）は、その生徒たちを自分のクラス「1年1組グループ」に登録する。

この手順で、教員は、自分の担任クラスや、自分の授業を受講している生徒のグループを作れる。その上でどう使うかはアイデア次第である。グループに対して一斉に連絡を送れるし、提出物の連絡をして、それをエドモド上で受け取ることもできる。もちろん、生徒側から教員に連絡もできる。

現実の話として、本校の3学年団では、このエドモドと後に紹介する Zoom を併用して、下の例のような教育活動を行った。

➤ 朝夕の SHR :

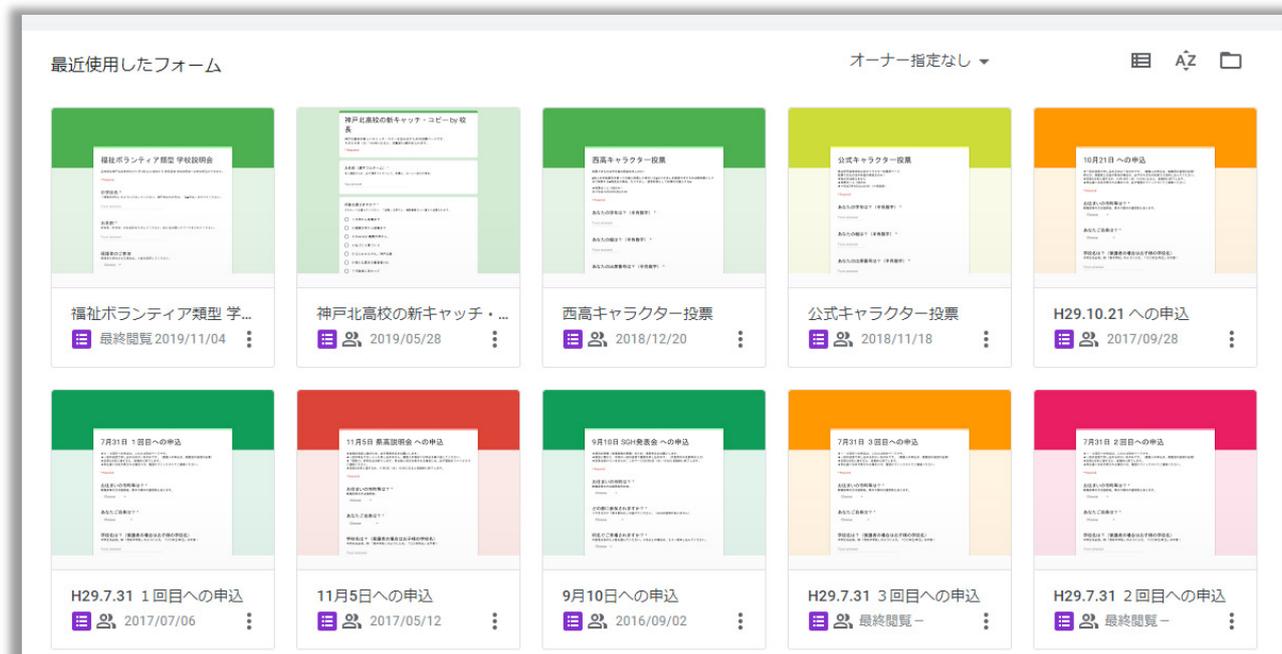
臨時休校中といえども、神戸北高では、「平日の日課は登校時と同じ」であり、普段の時間割（4月途中に配付）に従って自宅学習するように指導した。であれば、朝の SHR が重要な意味を持つのは、休校中でも同じ。しかし、実際には、生活リズムが崩れているのか、朝早く起きられなくて、朝の SHR に出て来ない生徒もいた。しかし、再度、「全員一律」でなくてもいいのである。「できることから」、「できる人から」。

➤ 生徒／保護者との面談 :

これは、非常に有益に思えた。臨時休校期間はもちろん、今年の夏休み期間でも感染拡大が終わっているとは限らない。また、そもそも働いていて忙しい保護者が多い中、平常時でもわざわざ学校に来ていただく必要がなくなる。3学年にとっては、年度初めから保護者との面談の必要が出てくる。そこで、神戸北高3学年団では、臨時休校中に、「オンライン面談」を多用した。

➤ 生徒の体調管理 :

文字通り。検温させた結果などを報告させるようにする。少し話が逸れるかも知れないが、たとえば検温の報告や上の「保護者面談日程希望調査」など、アンケート的な作業には、**グーグル・フォーム**が手軽で有効である。ただ、**グーグル・フォーム**は今更珍しいものではなく、これまであちこちで活用されているかとは思いますが、大変便利なものには違いない。



● 教育用 SNS「エドモド Edmodo」－ 教員間での活用（在宅勤務時に非常に有効）

理屈は、基本的に前ページの生徒対象の場合と同じである。具体的には、神戸北高では、臨時休校中に Edmodo に「職員室」を作った。もう詳しい説明は不要かと思うが、この「職員室」には、「神戸北高の教職員」だけが入れる。使える機能も、対生徒の場合と同じ。教職員同士の連絡ができたり、ファイルのやりとりもできる。

The screenshot shows the Edmodo interface for the '神戸北高 職員室' (Kobe Kita High School Staff Room). The main post is from Ms. Yamashita, dated May 25, 10:28 AM, regarding an open lecture on May 26th. An inset shows a post from Kaz Nagasawa, dated May 24, 4:55 PM, which includes a PDF manual for COVID-19 safety at the school. The manual text is as follows:

■5月22日(金)、文科省は、「学校の新しい生活様式」を公表しました。
(添付ファイル)

23日(土)の朝刊一面に大きく載っていたものです。
※神戸北高校は、「レベル2」に相当します。

一般的な感染予防に関する内容はもちろん、私たち学校現場が関わるあらゆることが載っています。

- ・教室内の配置。
- ・消毒のこと。
- ・各教科で指導すべき/避けるべき内容。
- ・校内で感染者が出た場合のこと。
- ・出席停止について。
- ・部活動(や給食)健康診断。

この資料は、6月からの神戸北高のコロナ関連の学校運営の拠り所となる指針です。従って、北高の教職員全員が目を通し、今後随時参照していただきますようお願いいたします。

どれだけの間読みのかは分かりませんが、もうこれからは、「以前のような普通の生活」はできません。
「ウイルスと共存した生活」となるわけで、今回の「学校の新しい生活様式」は、その基礎となるもの...
その他

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル.pdf

ファイルのやりとりも可能なこのような「ネット上の教職員専用連絡場所」は、「在宅勤務者」が多くなった期間、極めて有益な存在となった。

これもあとから考えると絶妙のタイミングであったが、本校では今年2月から、県の新しいグループウェア「Garoon」を日頃の業務で使い始めていた。

ところが、日々の連絡やファイル共有に便利に使っていたこのガルーンは、職場以外では使えないので、在宅勤務者には連絡を届けられないし、ファイル共有もできない。このため、Edmodo は、「在宅勤務者も使えるガルーンの役割」を果たすようになった。

私は、県庁 WAN メールが自宅でも使えるようになった直後、教育企画課に「ガルーンも自宅で使えるようにしてほしい」とお願いをしたが、結局返事はなかった。次に同じ状況になれば、ぜひとも必ず実現して欲しい。

でないと、私のような立場の人間は、同じ連絡をガルーンとエドモドと教職員専用北高メールの3箇所に書かないといけない…。

なお、本校教職員には、私から「公式に」エドモドにユーザー登録して職員室に入るように依頼したが、「過半数」にはなったものの、「殆ど全員」には至らなかった。

● Zoom ズーム

今や、改めて説明の必要がないほど有名になった。現在も使われているスカイプをはじめ、20年ほど前から、色々な「ネットミーティング」システムは存在した。どれも、機能は単純であると思う。従って、「何にどう利用するか」のアイデア次第だと思う。

本校での活用例は、以下の通りであるが、本校で使っている Zoom は、「40分までは無料」バージョンではない。無料なのはいいとして、個人的利用ならともかく、学校として使うには、無料版では厳しいと思われる。

● Zoom ズーム - 生徒に対する SHR、授業や学年集会、自習会

これが本校で最も多かった活用事例であった。実施中の映像の代わりに、下の「時間割」を見ていただきたい。なお、オンライン自習会は、6月の学校再開後も、「土日の図書室解放」時に継続して実施している。（自宅から Zoom で参加し、図書室にいる教員に質問等ができる）

兵庫県立神戸北高等学校 46 回生 (3 年生) 臨時休校中の時間割 [5 月 11 日～]

5 月 11 日版

ZOOM オンライン授業									
月		火		水		木		金	
8:55-9:15	学年朝 SHR	9:40-10:45	日本史 Bα	(午前 日本史研究) ※週によっては実施しない こともある。					
9:40-12:00	オンライン自習会	10:00-11:00	【理系】数学 II B			10:00-11:00	【数学探求標準 I】 数学 I A	9:40-12:00	オンライン自習会
		11:10-12:00	日本史研究	13:00-14:00	【選択 A】情報				
		13:00-14:00	【理系】数 III	14:10-15:00	【選択 B】情報	13:00-14:00	【理系】数 III		

動画配信									
月		火		水		木		金	
時間不定	【選択者全員】世界史 ※小テストあり	AM ※5/19配信開始	【全員】国語 課題プリント解説	時間不定	【選択者全員】世界史 ※小テストあり	AM ※5/19配信開始	【全員】国語 課題プリント解説	時間不定	【選択者全員】世界史 ※小テストあり
10:00	【全員】英語			10:00	【全員】英語			10:00	【全員】英語 →小テストを日曜日までに実施
10:00	【理系】数 III			10:00	【理系】数 III			10:00	【理系】数 III

問題配信									
月		火		水		木		金	
【進学者】英語長文		【進学者】英語長文		【進学者】ターゲット小テス		【進学者】英語長文		【進学者】英語長文	
【進学者】現代文長文読解		【進学者】現代文長文読解		【進学者】現代文長文読解		【進学者】現代文長文読解		【進学者】現代文長文読解	
【理系】物理・化学は毎日問題配信+随時解説動画					【理系生物・生物探求】Edmodoにて別途指示あり				

上は、ある週のオンライン時間割である。これらのコンテンツは、Zoom に限らず、様々なツールで提供されるわけであるが、5 月にもなると、これが「日常」になっていた。

そしてその頃には、どの学年も、このような「時間割」を生徒に周知させる手段は複数手に入れていたが、依然として、当初の「北高ブログ+北高メール」が、最も定番（最も確実）な連絡手段であり続けた。「標準の連絡手段」を決めておくのは、学校にとっても生徒にとっても有益であると思われる。

● Zoom ズーム - 部活動のミーティング

Zoom は、クラスの SHR や授業関係だけでなく、運動部のミーティングでも利用された。次ページの画像は、サッカー部のミーティングの様子である（一部画像を加工）。



上の映像では、在宅勤務中の顧問をはじめ、部員全員が、自宅から Zoom 会議室に集まってミーティングを行っている。

● Zoom ズーム - 教職員間での利用（次ページに続く）



神戸北高では、4月24日、教職員の「Zoom 研修会」を行った。4月半ばから在宅勤務が可能となり、その割合を高めなければならない中、教職員がいる場所を問わず連絡や打ち合わせができるようにするためである。

この日は十数名が参加したが、そのうち約半数が在宅勤務中の者であった。「研修会」というほど堅苦しいものではなく、楽しい雰囲気の中、Zoom は全然難しいものでないことがよく分かったと思う。

● Zoom ズーム – 教職員間での利用（続き）

言うまでもなく、このときの参加者の中には、自宅（や職場）で自分のスマホ／タブレットで参加した者も多かった。

この週、本校では、校運を除き、予定していた会議は全て中止した。3密を避けるためと、在宅勤務を推進するためである。しかし、この日の様子を見て、私は確信した。「職員会議はZoomで行える」と。

現実には、Zoomで「職員会議」は実施しなかったが、次の項目では十分に活用できた。



● Zoom ズーム – 「職員朝礼」での利用

4月中は、学年会議など、局地的にZoomが使われている状態であった。しかし、先の研修会を経て、5月の連休以降は、毎朝の職員朝礼でZoomを併用するようになった。「併用」とは、職員室では通常通りの朝の打ち合わせをするが、そこにウェブカメラ付きのデバイスを置き（Zoomを立ち上げ）、在宅勤務の教職員は、Zoom会議室に入って、リアルタイムで連絡を聞くことができるようにしたのである。双方向通信なので、在宅の教職員が聞き取りにくかったときは、そのように伝えて確認することもできる。

先に、「2月から日々の連絡用にガルーンを使うようになった」と書いたが、その最大の目的は、朝礼の時間短縮であった。なので、本来的には朝礼で立ち上がって「声で」連絡をするのは望ましいことではないのだが、生徒がいない臨時休校中、朝礼では時間に余裕があったので、多くの教職員は「声で」連絡をしていた。ガルーンを自宅で使えない在宅者が多い環境では、これは好都合であった。

なお、生徒が戻ってきた6月からは、「ガルーンを使い始めた趣旨」を再確認し、朝礼での「声で」の連絡は原則として禁止した。全ての連絡は、ガルーンの掲示板に書かれていて、各学年団の打ち合わせのために時間短縮を図っている。

● YouTube による動画配信

令和元年5月、「神戸北郎」名義で、神戸北高のYouTubeアカウントを立ち上げてはいた。やがては、学校紹介ビデオを載せたいと思っていたものの、長い間、校歌の動画しかなかった。しかし、今回の臨時休校期間に、動画がどっと増えた。現在ある28本の動画のうちの殆どが、臨時休校をきっかけに生まれたものである。動画の種類を分類すると、下の通りとなる：

- 部活動紹介系（2年前の全部活動、野球部、サッカー部、吹奏楽部）
- オンライン授業系（数学Ⅲ、世界史、英語文法、体育のエクササイズ）
- その他（特色類型先輩の声、昔テレビに出た神戸北高×2、保健委員の発表、など）



数的にはオンライン授業系の動画が最多であるが、これは、「外部向けアピール」のために載せただけである。本当に本校生向けとするなら、Edmodo やスタサブに載せれば済むことなので。

視聴回数が多いのは（人気があるのは）、ダントツで部活動紹介系である。中でも、2年前に制作された部活動紹介が再生回数最多である。就任直後にこの動画を初めて見たときの私の印象は間違っていなかった。この動画は、各方面から非常に評判が良いのである。（今年度版は只今制作中）

因みに、体育の教員総出で、「長い休校中に体が鈍らないように」との趣旨で3本のエクササイズ動画を作ってくれた。どれも等しく良くできていると思うのだが、なぜか1本目だけがずば抜けて再生回数が多い。YouTube で、どんな条件の時に再生回数が増えるのか／増えないのか、本当によく分からないものである。

高 神戸北部
チャンネル登録者数 115人

チャンネルをカスタマイズ YOUTUBE STUDIO

動画

アップロード済み ▾ すべて再生 並べ替え

動画タイトル	再生回数	投稿日時
神戸北高校 吹奏楽部 PV 2020 Paradise Has No Border	698 回視聴	3 週間前
テレビに出た神戸北高校 2000年1月	429 回視聴	1 か月前
テレビに出た神戸北高校 2006年7月29日	283 回視聴	1 か月前
英語 強調と倒置 神戸北高校	133 回視聴	2 か月前
英語 無生物主語 The pictures remind me of my childhood.	85 回視聴	2 か月前
神戸北高校 臨時休校中のネット授業 2年生 英語 #6 強調...		
神戸北高校 臨時休校中のネット授業 2年生 英語 #5 無生...		
神戸北高校 体育科		
英語 現在完了進行形 過去完了、未来完了形		
兵庫県立神戸北高等学校 体育科		
英語 現在完了形の復習 神戸北高校		
英語 知覚動詞		

● Twitter「兵庫県立神戸北高等学校長」 @KobeKita_HS

これは、学校でというより、私が個人的に使っているものである。しかし、そのアカウント名のとおり、目的は「公用」である。数ある SNS 等の中で、私にとって Twitter だけは「未知の領域」であった。全世界中で著名人をはじめ、非常に多くの利用者人口がある一方で、日本では「10~20代の若者のツール」とのイメージがあったのも、使い始めなかった要因だったと思う。

でも、それが故に北高生たちにメッセージが届きやすいのではないかと思い、令和2年正月早々にアカウントを作った。しかし、数日たってもフォロワー数はゼロのまま…。ところが、1月8日始業式当日の朝、「気象警報が出たので、登校せずに自宅待機して」とつぶやいたところ、その日のうちに、数十名ものフォロワーができた。Twitterの威力を痛感した次第であった。

今では、フォロワー数は百を大きく超え、その多くが本校生であると見られる。ざっくり言って、全校生徒の5分の1近くがフォロワーになっているのかも知れない。「高校の校長が Twitter をしている」のが珍しいようであるが、やはり見込み通り反応が良く、こちらにメッセージが届くこともある。臨時休校中の緊急連絡のときは、原則としていつも次の順番で情報を流した。

➤ 北高ブログでお知らせを作成 → Twitter で「ブログを見て」と送信 → しばらく後に同じ内容を北高メールで送信。つまり、Twitter の方に早く情報が届くようにしていたのである。

IV 県教育委員会の支援

● 県教育委員会からの支援（スタディサプリ）

本校では、県教育委員会高校教育課が無償で導入してくれた「スタディサプリ」が使えるようになるための個人ID・パスワード、マニュアルを4月27日に郵便で生徒自宅宛に発送した。ゴールデンウィーク中にユーザー登録をして使えるようにするためである。

前述のように、3学年団では4月当初からオンラインツールを用いて生徒との連絡を密にし、オンラインでの取組は軌道に乗っていたが、1・2学年が出遅れていた。しかし、このスタサプを得たことで、5月に入ってからは生徒との直接のオンライン連絡手段も得ると同時に、教員が自分で作った「授業動画」の配信もなされるようになった。

3学年では、スタサプも利用するものの、混乱を避けるため、従来のEdmodoをメインのツールとする。1・2学年では、スタサプをメインのツールとする形が確立した。

● 県教育委員会からの支援（タブレット）と生徒に関する問題／課題

全ての生徒の家庭に「ネット環境」があるわけではない。県教育委員会教育企画課では、自宅でネットが使えない生徒のために、当分の間タブレットを無償で貸与してくれることになった。スタサプと同様、これも非常にありがたい対応であった。本校では、1・2学年の生徒4名分を借りることにして4月24日に受け取った。



しかし、これで全て解決したかという点、そうではない。オンラインでの教育活動が軌道に乗れば乗るほど、当然ネット（パケット）使用量が増える。無料である「Wi-Fi」が使える家庭は問題ないが、公衆電話網しか使えなくて「パケホ」でなければ上限はあり、それを超えるとどんどん追加料金がかかる。そんな訴えが数件届くようになった。

全校生には、「個々に対応するので、連絡して欲しい」と伝えていたが、もし今後また臨時休校が始まると、このことは、解決しなければならない大きな問題になるのは間違いない。同時に、同じことが起きた教員もいた。在宅の状態でもSNSやZoomを用いて生徒に教育活動を行う場合、教員個人のネット契約状況次第では、簡単に上限を超えてしまうのであった。

V 今後のこと

学校再開の目処がついた5月下旬、私は本校教職員に次のことを告げた。

「臨時休校期間中に培った、オンライン／ネットを使った学習指導／生徒指導技術は、臨時休校期間中のためだけのものではない。今後学校が再開されても、継続して活用していくべきものである。生徒とオンラインで連絡ができるシステムは、例えば夏休みなどの長期休業中などでも有効で威力を発揮するものである。『難しいことを無理矢理やらされる』のではなく、教員自身にとっての負担軽減や作業効率化に繋がるものでもある」

同時に、5月20日付けて、次ページの文書を保護者宛に発出した。（北高サイトにも掲載）

ここに書かれている中で、G Suite for Education だけは、まだこれから使う予定のものである。これは、グーグルによる（元々は企業向け）クラウドサービスであり、「できること」は無量大であるとも言える。更に、教育機関には基本的に無料で提供されるのである。

神戸北高では、既に学校のアカウント（いわゆるドメイン）は取得しているが、あと一歩の設定に時間がかかっていて、まだ完全に開始できていない。しかし、ぜひ近々運用を開始して、本校の教員が日々の教育活動に使えるようにしたい。

「G Suite で何ができるの」、「なぜ必要なの」と時々聞かれるが、「神戸北高校が関わるネット上の活動が、全て G Suite で可能になる」という言い方はどうであろうか。もちろん、Zoom に相当する機能も付いており、軌道に乗れば、Zoom にお金を払わなくてもよくなる。

または、「全校生徒（と教職員）に一意的「ID」、ひいては、電子メールアドレスを与えることができる」という意義も非常に大きいと思っている。

（下は、G Suite 管理コンソールのホーム画面。全ての設定は、ここから行う）



令和2年5月20日

保護者様

兵庫県立神戸北高等学校

校長 長澤 和弥

休校中のオンライン教育環境整備（教育用ツール）について

臨時休校が長引いており、大変なご不便とご心配をおかけしておりますこと、誠に申し訳ありません。

この休校期間中、本校では4月より、「とにかくできることから始める」との考え方で、ネットを利用した取組を進めてきました。その後、本日以降に「登校可能日」を設けており、来月からは限定的・部分的な学校再開の可能性もあるのかも知れません。しかし反面、諸外国を見ても、今後第2波、第3波がやってくることは十分に考えられます。

つきましては、神戸北高校では、下記のオンラインツールを学校教育のために活用することとし、改めて学校全体で、休校中の教育環境を整えたいと思います。保護者の皆さまにおかれましては、どうかご理解をいただきますよう、お願いいたします。

なお、これらのツールの殆どは、学校が完全に元に戻ってからでも利用価値が大変高いものなので、オンライン教育環境整備は、休校中のために限らないこと、また、生徒自身にとっても、利便性の高い機能が多いことを申し添えます。

記

- **スタディアプリ** *「確認テスト」の受験のみ有償。(受けないかも知れません)
(株)リクルートが運営している学習用ツール。数多くの授業動画が見られたり、学校と連絡がとれたりする。今年度に限り、県教育委員会が料金を負担。
- **Zoom「ズーム」** *生徒に料金はかかりません。
複数人間がネット上に集まり、お互いの顔を見ながら、会話や情報のやり取りができる。3月頃にはセキュリティーについての指摘もあったが、本校としては、問題はないと認識しており、県教委の公式ツールにもなっている。
- **Edmodo「エドモド」** *無料
日本ではZ会が運営する「教育用SNS」。Facebookなどと似た機能があるが、完全に教育目的に開発されたもの。
- **G suite for education「教育用 ジー・スイート」** *教育機関は無料
グーグルの企業向け製品。実に多彩な機能があるが、本校の第1の利用目的は、全生徒に(メール)アカウントを与えられること。それを用いれば、学習だけでなく、部活動の部員間での連絡等にも利用できる。近い将来的には、校内で使うタブレットのファイル置き場にもできるなど、ポテンシャルは非常に高い。